令和7年7月2日(水) Innovate MUSEUM事業 成果報告会

令和6年度 Innovate MUSEUM事業 （地域課題対応支援事業）

ともに　みる・よむ・体験する事業

「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム実行委員会

ちひろ美術館・東京　原島 恵（シニア・アソシエイト／主任学芸員）

本報告の内容

1.「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム実行委員会について

2. 事業の目的

3. 具体的な取り組みについて

4. これからについて

1.「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム実行委員会について

構成団体

美術館

中核館：ちひろ美術館・東京

練馬区立美術館

子育て支援団体

特定非営利活動法人 手をつなご

図書館

練馬区立石神井図書館

練馬区立貫井図書館

練馬区立南田中図書館

若者の就労支援団体

ねりま若者サポートステーション

1.「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム実行委員会について

「ねりまフォーラム」 活動の背景

■国内のアクセシビリティ関連の法整備の進行

2022年
■ICOM(国際博物館会議)プラハ大会　ミュージアムの定義の一節
「博物館は一般に公開され、誰もが利用でき、包摂的であって、
多様性と持続可能性を育む」

■改正博物館法　ミュージアムを中核とした地域活性化機能や、
「文化施設」としての役割が強調される。

⇩

構成団体がそれぞれに培ってきた文化を土台にして・・・・・

社会を構成するさまざまな人たちが体験や場を共有して、気づきや理解を深め、
「幸せ」を感じる共生社会をつくることをめざす。

1.「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム実行委員会について

わたしたちが考える現状と課題

現状

練馬区
・東京23区のなかでも子育て世帯が多い地域。
・高齢化が進む。高齢者の6割が後期高齢者。要介護認定の割合も増加。
・引きこもりなど問題を抱える若者の増加。
・障がい者総数は約32,000人、人口の4.4%に相当。

課題

さまざまな人たちのウェルビーイングの実現が求められる。
地域や社会への視点と、社会包摂の意識を向上する必要がある。

美術館が中核となり、地域の施設や団体が連携し、さまざまな視点から課題を見つめなおす。

2. 事業の目的

1. あらゆる特性のある人を包摂し、
   社会全体のウェルビーイングを実現するため、
   文化芸術体験を共有する場（フォーラム）をつくること。

2. 参加者とともに文化を創出し、地域を活性化すること。

2. 事業の目的

ねりまフォーラムの強み

同じ地域の美術館2館、図書館3館、
子育て支援団体、若者の就労支援団体が連携

↓

それぞれの専門性や、人脈を生かして事業を立案

↓

異業種交流が見える芸術文化活動の実現

↓ ↓

所属団体の事業も活性化　　地域の交流を促進

社会包摂の視点を持った文化芸術体験の機会を創出

3. 具体的な取り組みについて

ともに　みる・よむ・体験する事業　5つの柱

1. 事業の質向上のための取り組み

2. 障がいのある方の文化芸術体験へのアクセシビリティを高める取り組み

3. 子どもとその保護者を対象にした文化芸術体験の創出

4. 認知症のある方や高齢者と文化芸術体験をつなぐ取り組み

5. 社会包摂とウェルビーイングを啓発する取り組み

3. 具体的な取り組みについて

1. 事業の質向上のための取り組み

①先進事例調査

2. 障がいのある方の文化芸術体験へのアクセシビリティを高める取り組み

②地域で活用するツールをつくるためのインクルーシブデザインワークショップ
③手話通訳つきギャラリートーク
④障害のある方とともに美術館を楽しむためのワークショップ

3. 子どもとその保護者を対象にした文化芸術体験の創出

⑤出張「子育ての広場」
⑥あかちゃんのための鑑賞会　⑦子どもための鑑賞会
⑧子どものためのワークショップ

4. 認知症や高齢者と文化芸術体験をつなぐ取り組み

⑨認知症のある方とそのご家族・介護者を対象とした鑑賞会
⑩認知症とアートに関する講演会

5. 社会包摂とウェルビーイングを啓発する取り組み

⑪絵本画家による講演会
⑫ソーシャルインクルージョンをテーマにしたワークショップ
⑬ねりまフォーラムの取り組みを広めるための記録動画
⑭音声での道案内機能付き地図

3. 具体的な取り組みについて

1. 事業の質向上のための取り組み

先進事例調査

■実施日：令和6（2024）年8月30日
■訪問先：日本科学未来館
■参加者：「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム実行委員会メンバー

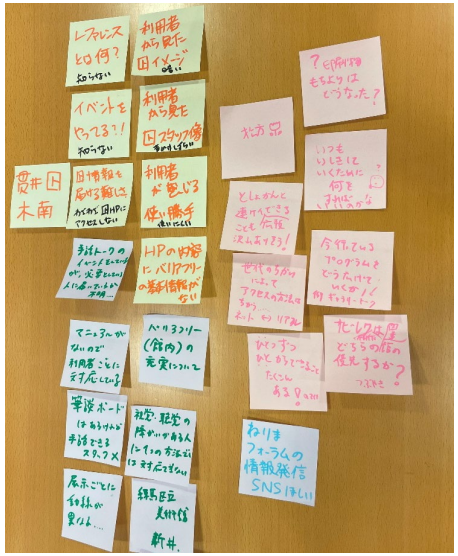
日本科学未来館（東京・江東区）にて

3. 具体的な取り組みについて

2. 障がいのある方の文化芸術体験へのアクセシビリティを高める取り組み。

インクルーシブデザインのワークショップの開催

■開催日：令和6（2024）年9月9日／10月16日
■講師：NPO法人Collable 代表　山田小百合氏
■会場：練馬区立貫井図書館／ちひろ美術館・東京
■参加者：「みる・よむ・体験する」実行委員会メンバー



練馬区立貫井図書館にて

3. 具体的な取り組みについて

インクルーシブデザインのワークショップ記録動画の制作と配信

だれもが利用しやすい施設・環境とは？　インクルーシブデザインワークショップ活動報告　「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム実行委員会

3. 具体的な取り組みについて

2. 障がいのある方の文化芸術体験へのアクセシビリティを高める取り組み。

手話通訳つきギャラリートーク

■開催日：令和6（2024）年12月7日/12月8日
■会場：練馬区立美術館　ちひろ美術館・東京
■対象：手話通訳を必要とする方他、どなたでも
■参加者数：練馬区立美術館19名（延べ）
　　ちひろ美術館・東京15名

練馬区立美術館にて

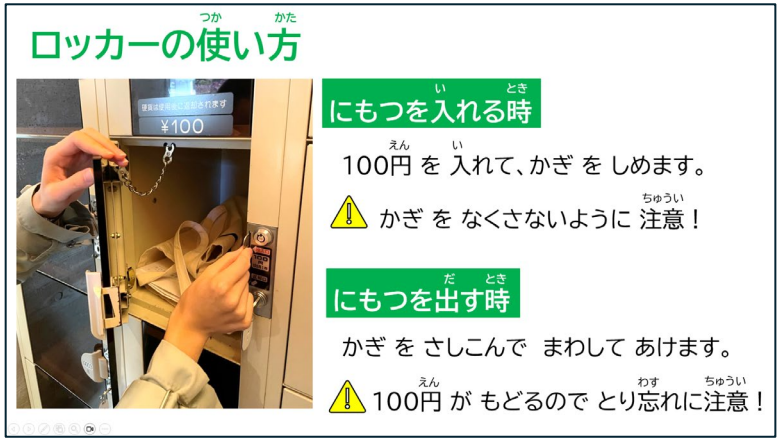
ちひろ美術館・東京にて

3. 具体的な取り組みについて

2. 障がいのある方の文化芸術体験へのアクセシビリティを高める取り組み。

障害のある方とともに美術館を楽しむためのワークショップ

■開催日：令和6（2024）年12月23日
■ワークショップリーダー：NPO法人エイブルアートジャパン　みんなでミュージアム
■協力：NPO法人障がい児・者の学びを保障する会
■会場：ちひろ美術館・東京
■対象：More Time ねりまおよび3B!!!s通所者と介助者
■参加者数：14名



来館にあたり、説明会を設け、ソーシャルストーリーを作成して館内の紹介をした。

3. 具体的な取り組みについて

3. 子どもとその保護者を対象にした文化芸術体験の創出

出張「子育ての広場」

■開催日：2024年9月18日／11月19日
■会場：ちひろ美術館・東京
■対象：乳幼児と保護者
■参加者：合計15組

ちひろ美術館・東京　こどものへやにて

3. 具体的な取り組みについて

3. 子どもとその保護者を対象にした文化芸術体験の創出

子どもためのワークショップ 「ひとりひとりの1ページ こうさくえほんをつくろう」

■開催日：令和6（2024）年12月21日
■講師：冨田めぐみ（NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事）
■会場：ちひろ美術館・東京
■対象：3～12歳の子どもと保護者（外国にルーツがある方を含む）
■参加者数：5組11名

ちひろ美術館・東京にて

3. 具体的な取り組みについて

4. 認知症の方や高齢者と文化芸術体験をつなぐ取り組み

認知症のある方とともに美術館を楽しむためのワークショップ

■開催日：2024.11.20
■講師：松尾真紀子（一般社団法人アーツアライブ認定アートコンダクター）
■会場：ちひろ美術館・東京
■対象：認知症のある方とそのご家族
■参加者数：4組9名

ちひろ美術館・東京にて

3. 具体的な取り組みについて

5. 社会包摂とウェルビーイングを啓発する取り組み

ソーシャルインクルージョンをテーマにしたワークショップ
「紙の葉っぱをつくろうwith『みんな なかまよ』展」

■開催日：令和6（2024）年11月30日
■講師：塩瀬隆之（京都大学准教授）、佐藤蕗（子どもの手づくりおもちゃ作家）
■会場：ちひろ美術館・東京
■対象：小学生と保護者　参加者数：合計16組43名

ちひろ美術館・東京にて

4. これからについて

今まで

令和4年度から6年度まで
芸術文化活動を中心にした社会包摂促進（場づくり）や、
芸術文化施設のアクセシビリティを高める取組を行ってきた。

課題

地域の芸術文化活動を持続可能にするためには・・・・・

地域全体で子どもを見守る環境づくりと
ネットワークの構築が必要。

今後

・地域で療育に携わる専門家と連携して、
芸術文化でエンパワメントし、ネットワークづくりを行う。
・文化芸術施設を起点としたまち全体で地域の子どもを見守る
まなざしと子どもを育む環境を涵養する市民講座を開催。

目標

課題を抱える親子の早期支援と、美術館や図書館の利活用の促進、長期的な地域文化の醸成。

ご清聴ありがとうございました。

「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム実行委員会